

# 歴史と伝統とまつり

## ひめこそ 比賣許曾神社

所在地 東小橋三丁目八番十四号

御祭神 下照比賣命

夏祭 七月第三土・日曜日

秋祭 十月十六日



比賣許曾神社は今から約二千年前垂仁天皇の時に愛久目山（天王寺区小橋町一帯）の高台に下照比賣命を祀って高津天神と呼ばれたのが起源であります。推古天皇の時代には聖徳太子がお参りになったと伝えられています。

時代は流れ、室町時代には戦火に遭い、將軍足利義晴が社殿を再建設しました。しかし天正年間織田信長の石山本願寺攻めの時にまた戦火に遭い、その後小橋村の人達が御神祇を奉護し現在の地に移し比賣許曾神社と称しました。又、愛久目山（天王寺区小橋町）の田地には祭神、大小橋命の産湯の井戸があり産湯桶荷神社として祀られており、現在比賣許曾神社のお旅所となっています。この産湯桶荷神社も大阪大空襲で焼失し、昭和三十九年、産湯桶荷神社復興委員会によって現在の様に再建されました。夏祭は七月第三土、日曜日で、お旅所まで獅子舞、まくら太鼓、みこし、だんじり等が巡行します。



# 歴史と伝統とまつり

## 八坂神社

所在地 中道四丁目八番二〇号  
御祭神 素盞鳴尊・菊理姫命  
夏祭 七月第三土・日曜日  
秋祭 十月十六日・十七日  
戎祭 一月九日・十日・十一日



八坂神社は寛仁元年に関白、藤原道長が別邸を建て「牛頭天王白山権現」を鎮守の神として奉祀したのにはじまると伝えられています。  
南側には奈良の都、伊勢神宮へ通ずる暗越奈良街道があり、人々の往来が頻繁だったということがあります。  
明治五年に村社として「八坂神社」に改名されました。御祭神はあの著名な八岐の大蛇を退治された素盞鳴尊をお祀りし、昔から疫病悪事災難、悪魔を鎮める御霊徳を持たれ一月十五日の「どんど」の神火を受けて帰り御飯を炊いて食べると一年中疫病にかからないといわれています。又、菊理姫命は昔から縁結びの神として有名です。  
夏祭は七月第三土、日曜日に行なわれ、だんじりの巡行、氏子の演芸大会等境内は出店で賑わいます。  
境内の西側には恵美須大神が祀られており、一月九日、十日、十一日、は尚壳繁昌を祈願して、多くの善男善女が参詣をします。



# 歴史と伝統とまつり

## 八王子神社

所在地 中本四丁目二番四十八号  
 御祭神 八王子大神・宇賀御魂神  
 夏祭 七月第三土・日曜日  
 秋祭 十月十六日・十七日



八王子神社の創建は今から約千七百年前、応神天皇の頃と云われています。神社一帯は小松山という丘に位置し、東側には平野川が流れ、攝津国東生郡木庄村といわれておりました。昔は八王子稲生神社と称し、里人達は産土社として崇敬してまいりました。

明治四十二年に西今里村村社八剣神社（境内には樹齢千年を越す楠樹がある）と併せて「楠神社」と呼ばれる）を合祀し、社名を現在の八王子神社に改称されました。

楠神社は現在八王子神社のお旅所となっております。八王子神社の境内には昔から椿が繁茂し、椿の宮として世に知られ、孝徳天皇が浪速に來られた時、高麗狗一對を御献納されたと伝えられています。

当神社の主祭神、八王子大神は武勇にすぐれた神様で厄除の守護神として地域の人々に崇められています。

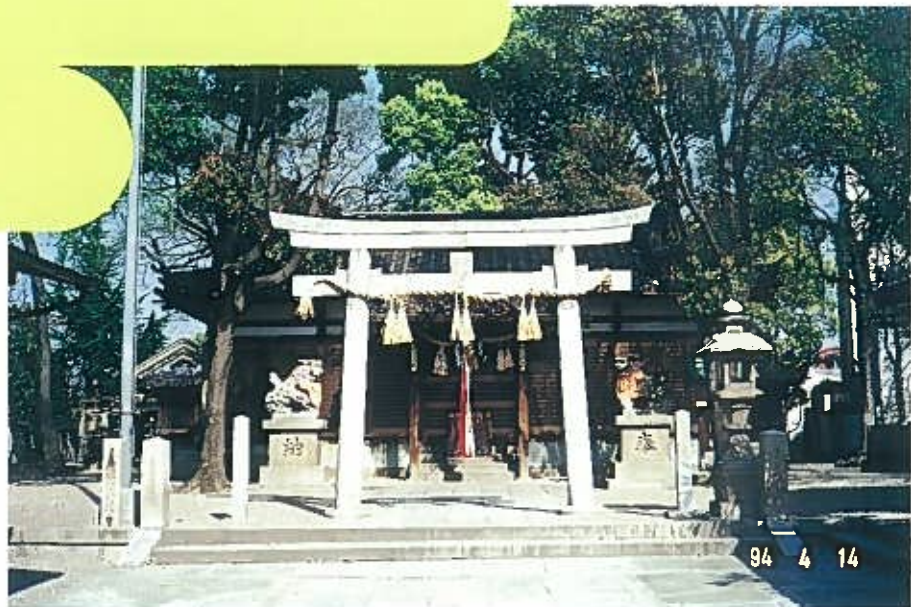
夏祭は七月第三土、日曜日でだんじりが地域を巡行します。又二月三日の節分祭には夕方六時より「厄除護摩焚」が約二百数十年の昔から受けついで伝統行事で「宝一、二講」がしめやかにとりおこなわれます。当日は東中本、北中道、今里地区から又、城東区からも多数の参詣者があります。



# 歴史と伝統とまつり

## 熊野大神宮

所在地 大今里四丁目十六―四十八  
 御祭神 伊弉册尊・ほか五柱  
 夏祭 七月十六日・十七日  
 秋祭 十月十六日・十七日



94 4 14

熊野大神宮の創立年代は少なくとも千四百年以上を経ており、用明天皇二年（五八六年）聖徳太子が四天王寺を創設された時、当社に拾二坊の伽藍を建立され、当社の社務を司どられました。

当時は境内も広く社殿は麗しく祭事も盛大にとり行なわれていたと伝えられています。

元亀元年（一五七〇年）石山本願寺と織田信長との合戦の際、伽藍、社殿は兵火に遭い焼失し、現在の妙法寺に社殿が仮に建立されましたが、慶長九年（一六〇四年）阿闍梨祐忠が本殿及び拝殿を再興しています。

慶長十九年（一六一四年）の大坂冬の陣には徳川方の陣屋となり、その翌年元和元年（一六一五年）松平下総守忠明が大坂城代に就任して以来、城代就任時には当社を参拝するのが恒例となりました。延宝七年（一六七九年）阿闍梨契沖が社僧となり万葉代匠記を著わしたのは有名です。明治八年村社となり、熊野十二所権現の社号を熊野大神宮と改称、明治四十四年に東今里村社を合祀し、現在その地はお旅所となっています。

住吉（大佐）十二代目川崎宗吉の作と言われる本社、安政二年（一八五五年）の作と伝えられるお旅所の各だんじりは、毎年夏祭にはだんじりばやしを響かせながら、にぎやかに曳行されています。



## 深江稲荷神社

所在地 深江南三丁目十六番十七号

御祭神 宇迦御魂神・下照姫命

夏祭 八月一日

秋祭 十月十七日



深江稲荷神社の創建は垂仁天皇の時代に筥縫氏の祖先が攝津国東生郡筥縫島宮浦の地（現在の深江南三丁目）に居住し、下照姫命を奉祀したのが始まりで、その後元明天皇和銅年間に山城国（京都）の伏見稲荷大社の主祭神、宇迦御魂神を勧請したものとされています。昔、この附近一帯は水田地帯で農耕の神として永年信仰されてきました。

慶長八年に豊臣秀頼公が社殿を改造したが同十九年に兵火によって焼失しました。その後、宝暦十年に本殿及び絵馬堂を再興し寛政八年に本殿、拜殿を修復し、現在の石鳥居は当時のものといわれています。境内には、筥縫部の先祖を奉祀する筥縫神社があります。

筥縫氏は、歴代天皇御即位式の大嘗祭や伊勢神宮式年遷宮の時に用いられる菅御笠はすべて深江から献納されてきました。

大阪はなれて早や玉造、笠を買うなら深江が名所、ヤートコセ、ヨイヤナー

夏祭は毎年八月一日で午後五時より境内において「献湯の神事」が巫女によってとりおこなわれています。

秋祭は氏子の有志によりまして、手作りの店で賑い、コミュニティを深めています。

十月二十八日の火焚祭には夜、境内に焚火され、人長の舞が奉納される優雅なお祭りです。



# 歴史と伝統とまつり

## さいのおおがみ 歳の大神

所在地 大今里一丁目三四番三〇号  
祭………十月の終り又は十一月の  
初めの日曜日

歳ノ神（塞神）は、古来より村境や峠や道の辻等で祀られており、道路を守り、悪気、邪神をさへぎる道祖神ともよばれています。

この今里にお祀りする歳ノ神は、一五八三年（天正十一年）豊臣秀吉が大阪城を築城するにあたり、その守り神として城をとりまく周辺の要所十数ヶ所に祀らせたものの一つであると伝えられており、今里の場合は大阪城に一番近く、城より巽の方角にほぼ一里毎に数段に重なるて祀らせたものであると推定されます。大阪築城から今日まで約四〇〇年間、幾多の戦禍、風水害等天・人災に遭ったが、地元住民によって代々守護神として祀られて来ました。



# 各種イベントとまつり



“桜まつり” 北中道幼稚園H. 6. 4. 9



“片江ゆずりはの道” 完成記念パレードS. 62. 4. 18



“御堂筋パレード”参加 東成区子供みこしH. 6. 10. 10



“桜まつり” 西之口公園H. 6. 4. 1



“子供カーニバル” 東成会館H. 4. 12. 4



“区民体育祭” 大阪城公園H. 6. 10. 16